



- 岡山ユネスコ協会第9回定期総会が開催されました -

新米理事 青山 勳

去る5月25日、岡山国際交流センターにおいて、第9回岡山ユネスコ協会が開催された。総会出席者は委任状を含めて83名であった。私にとって、総会の出席は2度目であるが、今回は理事の一人に推薦されるというので、特別な感慨を持って出かけた。それを見透かされたのかどうかは定かでないが、総会の記事を書くように要請された。これは青天の霹靂だったが、事務局の小竹さんから、にっこり依頼されたら、断る訳にはいかなかった。そんな経緯の下ではあるが、少し総会の紹介をし、個人的な印象を書かせて頂く。

総会は橋本事務局長の司会の下に、三宅会長の挨拶によって始められた。審議に先立ち、「メディアは通訳」というタイトルで、山陽放送曾根英二報道部長の特別講演があった。講演は氏の報道マンとしての経験と海外生活の経験から文化、戦争、平和の問題と幅広い内容に及び、そして豊島における12年の戦いを通して、人は「怒りとやさしさ」を併せ持つことが大切であると結ばれた。豊島の問題には私自身も多少の関わりがあったので、改めて思い起こされる話であった。

総会の審議は坪井理事の軽快な司会によって進められた。全部で5つの事案があり、全般的な総括報告が橋本事務局長によって、簡潔に、要領よく報告された。内容は平成13年度の活動実績及び、決算報告、平成14年度の役員、事業計画及び予算案が示された。岡山ユネスコ協会は多様多彩な活動を行っている。活動内容は事務局、地球環境部、ボランティア部、国際理解部、インターネット部等それぞれの部会責任者から、1年間の活動の様子が生き生きと語られた。今ここで詳細に紹介できないのは残念であるが、若い世代の責任者とちょっと年上の人たちが綿密な連携を持って、ほんとに楽しみながらボランティア活動をされている様子が伺われた。「世界の平和と人類の福祉の実現」を目指すユネスコの目的も、このような日常的な活動の積み上げによってのみ実現されるものであろうと思う。

今年度の新しい役員、三宅会長、奥田、浦上両副会長、橋本事務局長の下、理事20名（継続17名、新任3名、退任4名）、監事2名が選出され、新しい体制の下で今年度の活動が始められる。従来が国際、地球環境、芸術文化、広報の4つの新しい部に再編され、さらに6つの専門委員会が設置されることになった（詳細は総会資料を参照されたい）。この1年間、それぞれの部において、既に計画されているだけでも69件の事業がある。中でも今年度の大きな活動である、ヨハネスブルグ会議へ向けた様々な活動と、ユネスコ環境サポートセンター設立へ向けた活動は、インターナショナル・カフェやクッキング、絵画展などの日常活動を基盤として成り立つ国際的活動であり、岡山ユネスコ協会の力量を国内的、国際的に示す試金石となるであろう。しかし、すこし苦言を呈すると、予算案をみると、確定していない助成金や個人的な借入金に頼るなど、活動の多彩さ、大きさに比較して財政基盤に若干の脆弱性のあることを認めざるを得ない。活動の基盤に財政的保証のあることを忘れてはならない。昨年岡山ユネスコ協会の将来を考えるワーキンググループが設置され、活性化についての提言がなされた。来年は岡山ユネスコ協会が再建され10年を迎えるという。この1年間の活動は今後の10年につながる重要な礎になるのではないかと思う。

総会の第2部は、交流会で、高校生によるアカペラグループの歌声と、ちょっとお兄さんたちによるギターの演奏をバックにお酒と料理に舌鼓を打ち、楽しいひとときをみんなで共有した。

岡山ユネスコ協会に加盟する全ての会員が、何らかの活動に参加され、その活動を楽しんで欲しいと思う。そして、締めくくりと、出発点になる総会に参加されることをお薦めしたい。今後、新米理事の一人として微力を尽くしたい。先輩諸氏のご指導、ご鞭撻を期待して、個人的な総会報告とさせていただきます。

#### 第9回定期総会

第一部 総会 15:00～17:00

場 所：国際交流センター5階会議室

参加者：会員38名、一般2名 計40名

講演会：演題「メディアは通訳」

講師 山陽放送 報道部長 曾根英二 氏

第二部 交流パーティー 17:30～20:00

場 所：国際交流センター8階イベントホール

参加者：会員32名、一般3名、学生（会員も含む）14名、外国人6名 計55名

ゲスト：えるふ（アカペラグループ5名）、ロスコンデス（ギターグループ3名）

第二部は理事である井勝先生に乾杯の音頭をとっていただき、岡山県立瀬戸高校のえるふ5人組がアカペラで、「夜空の向こう」など5曲を歌い、楽しい雰囲気でのスタートとなりました。会員でもある逢沢一郎氏に挨拶をいただき、逢沢氏を囲み会員同士交流を深めました。交流会後半にはギターグループのロスコンデスの3人組が「コーヒールンパ」や「コンドルは飛んでいく」など楽しい演奏に参加者もうっとり聞惚れていました。

## - 国際協力専門要員養成セミナーの報告 -

3月12日から3月15日にかけて、哲多町の元小学校を改装して設置された公設国際貢献大学校で、国際貢献における実学の研修が開催された。岡山ユネスコ協会から佐橋謙、小竹祐加、山下浩由、黒田明雄の4名が参加した。神奈川県や京都府、鳥取県などからの参加者も含め幅広い年齢層の計25名が受講した。最終日には修了証書「岡山県主催の国際協力専門員養成事業を修了...」をいただいた。

この初めての取り組みは、岡山県と公設国際貢献大学校が連携して実施されたものである。国際機関やNGOが効果的な国際協力・貢献を展開するために欠かせない組織のプロジェクトやプログラムを企画、管理するコーディネーター（国際協力専門要員）の育成を意図としたものであった。すべて含めて4500円という参加費に、他の人にも勧めたいと思った。

全国的にも初めての取り組みであり、研修期間中、マスコミが取材をおこなうなかで研修はおこなわれた。研修プログラムの概要を紹介しよう。山の中で健全かつ有意義な生活を送ったかがお分かりいただけよう。

- 12日 校長講話「やさしさを海のむこうへ」 車椅子体験学習
- 13日 国際協力活動における危機管理 組織管理実務  
緊急救援報告 緊急救援現場における実践的対応
- 14日 健康の森学園見学 マレーシア公使講演と質疑応答  
NGOの国際協力の事例 NGO活動の現場でおこる事例討議  
交流会と班別ミーティング
- 15日 政府の国際協力の事例 英語にて研究成果の発表

今回のセミナーの成果であるが、実体験に基づく内容のある各講師の話により、個人的にも新たな知識を得たり、岡ユの活動にとっても示唆を受けたりすることがあった。学んだことの一例を挙げよう。海外におけるNGO人道緊急支援活動においては、現地の人に活動目的を明確に説明し理解を得ることの大切さを知った。さらに、現地で活動のポイントを握る調整員の働き、国内の所属団体内におけるコーディネーターの役割等々...人道支援が組織的におこなわれ一定の成果を上げる過程が具体的に話された。「援助を受ける側にもプライドがある。」「引き上げるときの方が大変である。」...実際に国際貢献に携わった講師から含蓄のある言葉も飛び出してきた。的野講師の3人組トイレの話は笑いを誘ったが、現場での切実な問題であり、NGO活動の表にでない実学であった。鈴木講師のプロジェクトマネジメントの話は、岡ユの活動にとって参考になるものであった。

(黒田明雄 記)

## ちょっとでも「行こうかな」と思っている人は至急ご連絡を

### ヨハネスブルグサミットへの参加について

あなたも国連主催のサミットに参加できます。ユネスコパリ本部の主催するNGOの環境フォーラム（仮称）には是非参加しましょう。岡ユ協の「環境サポートセンター構想」世界中に発表されるはずです。このフォーラムの開催日時が未定です。日が決まり次第、航空券の予約をしないとキップがとれない！という事態も予想されます（すでにその頃の北回り便はキャンセル待ちの便もある）。そこで、少しでも「参加してみようかな」という気のある方は、至急その旨を岡ユ協事務局に知らせておいて下さい。以前に意思表示をなされた方も、お手数ですが念のためもう一度事務局へお願いします。以後の連絡は、その方々にだけ致します。日程・経費などの大まかなところは次の通りです。

- 日程 : 2002年8月中旬～9月上旬の間の10日以内程度。
- 経費 : 20万～25万円

旅程など : 南回り（多分マレーシア経由）。ヨハネスブルグでの滞在はホームステイ。上記の経費には航空券と宿泊謝礼、滞在期間中の最低の食費は含まれると考えています。オプションのツアーなどは含まれません。オプションツアーは、日帰りツアーから数日間のサファリまで色々用意されているようです。

ご質問などは何時でも佐橋（電話：086-272-8691、FAX：086-272-1639  
E-mail：misaki@oka.urban.ne.jp）まで。

## - 第58回日本ユネスコ運動全国大会IN神戸参加報告 -

第58回日本ユネスコ運動全国大会が2002年6月1日(土)~2(日)にかけて、神戸新聞松方ホールを中心に開催されました。岡山ユネスコ協会からは多数の方が参加され、ニースレターに参加報告及び感想を投稿して下さいました。全国大会の様子が伝わってきます。

### 分科会「世界寺子屋運動の新たな展開」に参加して

(田畑美和子)

私は、昨秋のベトナムスタディーツアーの余韻もあり、第二日目の分科会に参加しました。増刷したベトナム報告集を総会会場で100部配布、分科会会場では現地でお世話になった奥川さんの顔も見られました。

最初に4名のアフガン・ゲストのメッセージがあり、改めて教育現場の荒廃、援助への願いが熱く語られました。経済的にも精神的にも破壊された国土で望むのは、麻薬から米の栽培に代えられること。そして、子ども達が銃で他人を殺すことを誇りにすることから、ペンを持つことに変えられること。木陰や崩れかけた壁のそばで、世界がアフガンを見ていることを強く感じながら零からの出発をしているという彼らの心情が、この後の「何故ユネスコが識字運動をするのか?」という問いに直結する答えだという気がしました。「文字をもたなくても平和に生活できるのでは?」という問いには、小さな閉鎖世界から出て、命に関わる情報を獲得するため、宗教や異文化を乗り越えて国際理解をするため、そして自分と他人の権利を知り互いに大切にするため。結果として、基礎教育の欠如から戦争に結びつくことを止めさせたい! 平和を作るための教育を!などの提言がありました。

15歳以上の非識字者約9億人(アジアが74%、女性が64%)が、1989年以来10年経っても減っていない世界の現状。これは、次から次へと非識字者が増えている、或いは無国籍の子ども達が表に出てきているから。ボリビアやブラジルでは国情などから撤退状態であり、ベトナムでは、大型プロジェクトは終了、ソフト支援が後数年続く。新たに、アフガンのバーミヤンや、隣国の非認定難民のオープンキャンプに計画が進行中。それらに直接の支援をしている地域コ協の人たちの真摯な声がいろいろ聞かれました。

<TERAKOYA設置場所の選定は?> 荒井氏によると、信頼できるパートナーになり得る団体が現地にあること。最低年4回の直接モニターができること。(これが意外に難しいとか)そして、住民や地元行政からの積極的なニーズがあり、自治体による継続予算を引き出す可能性のあるところ。ハードである建物がその後は、もらったことを忘れるくらい自分達のものとして大切な地域の財産になってくれること。(Community Learning Centerに。)

心の文化も含め、世界遺産などの貴重な文化を守りながらの識字運動を今後も育てよう。傷ついたものは、傷ついた時間の何十倍もの時間で修復しなければならない。50年後、100年後の成果を我々は期待して取り組まねば、と。“書きそんじはがき”で、年5,000万の募金になるということや、ペルーなどに地域のコ協が独自に寄金をして、寺子屋建設に参加していることも初めて知りました。

会員になって日も浅い私ですが、大きな大会に参加してこの運動の雰囲気をしっかり感じ取ることができた2日間でした。さて、次は何処へのスタディーツアー?

### 全国大会に参加して

(池田満之)

開会式では、昨年、岡山におこし下さった白川統括官が、文部科学大臣の名代として、神戸での震災体験などの話をされました。全体として今年の開会式の挨拶は、震災からの復興とワールドカップ、日韓交流が話題の中心だったように思います。「神戸市長はワールドカップ開会式に出席のため欠席」というのが、いかにも今年らしいなあと思いました。

米沢富美子さんの記念講演では、「21世紀の科学技術は、加速度的に進歩する反面、それに人間の英知、倫理が追いつけない」ことや、「2005年にはインターネットとつながったコンタクトレンズが開発され、目を閉じていても電子メールを読んだりできるようになる」といった未来予測のお話などを、パワーポイントを使ってわかりやすくされました。21世紀中に平均寿命も今の78歳から140歳になるというお話でしたが、そうなるといったい何歳からが高齢者になるのでしょうか。

今年は韓国伝統舞踊のステージがありましたが、ハイレベルのエンターテインメントはユネスコ運動の全国大会に相応しく、文化面でのユネスコ活動の魅力も味わえて楽しかったです。全体会では、この全国大会に招かれたアフガニスタンの教育省の人たちが紹介されました。教育省からの海外派遣は二十数年ぶりということでしたが、舞台に立った4名(通訳の人を入れると5名)の人には、とても感慨深いものがあったことと思います。

最後に全員でユネスコの歌(「手に手をとって」)を合唱したのですが、この曲、私にはとても歌いづらい曲に思えてなりません。岡山での全国大会の時に作った歌の方がずっと歌いやすかったし、いい曲だったとつくづく思いました。来年は、岡山で発表した曲を使ってほしいと提案したくなかったのは、私だけでしょうか。

来年の全国大会は北海道の札幌です。5月24, 25日と、例年より少し早くなりますが、皆さん来年は北海道に行きましょう。

## ユネスコ全国大会に初参加して

(中原邦子)

ユネスコへ入会後半年ちょっと。初めての全国大会。小竹さんの、夢のステージハイザナウようなロマンティックなトークについてその気になってしまったアタシ。(そういえばベトナムスタディーツアーへ参加できたのも佐橋先生の軽妙なトークのオカゲでした。トークに弱いアタシ)心を決めたあとは、せっかくだから「ジェネレーションギャップ」の分科会に臨んで、近年トミに覚えるギャップなるものを克服してこようと意気込んでみました。若者原田君の車に乗せてもらって一行6人、田畑さんを除いては初対面。緊張していたのも束の間、いつしか運命共同体としての絆が強くなってしまい、講演を聴く時間を忘れてエキサイティング神戸を闊歩しているアタシたちでした。

船上レセプションに臨んでみれば、お年を重ねたひとたちのなんと多いことか！アタシも多数派に属すかも？！と、ちょっと嬉しかったです。でも、そんな事は言っていられない。「ユネスコに若い力を！」と、分科会では出発前に思っていたこととは正反対の発言をしてしまいました。そのうえ原田君が、ジェネレーションギャップに阻まれないで活動しているモデルケースとして、我が岡山ユネスコについて発表しました。おこがましいかもしれないけどなんだか誇らしい気分になってしまいました。他の地域の方たちとも、知り合いになりました。ホットな2日間でした。

ジェネレーションギャップについて哲学(?)しに行った場所で、それを感じなかったのはなぜか?を哲学しなければならないアタシになってしまいました。お世話になったかたがた、アリガトウ!!

## 新しい青年組織「ユースラボ」

(ユースラボ代表 米津 孝成)

「昨年に引き続き、青年の集い・第5分科会・青年アピールは青年実行委員会が担当しました。今年は青年実行委員長を当協会の小竹祐加さんが務め、新しい青年組織「ユースラボ」がバックアップをするという体制で企画が進み、全国の青年の協力の下で各プログラムが行われました。」

<ユースラボへの問合せ先>

<http://www.unesco.jp/youth/> [Youth UNESCO Laboratory]

### (米津 孝成)

「第5分科会のグループディスカッション(8班)においてグループリーダー(司会)を担当させていただきました。活動も青年の現状についても全く異なる各協会からいらした参加者の議論をリードすることなど出来るのかと分科会前は不安でした。しかし、問題意識を持って参加されたみなさんからは問題点の明確な発言が相次ぎ、話し合いを進めるうちにおぼろげながら最大公約数的な共通認識を得ることが出来たように感じました。

私の班では、大人には「青年を受け入れ自由を認めることの出来る協会の基盤作り、環境作り」と、青年には「楽しく自由なだけでなく、ユネスコの理念や意義を理解する我慢」が必要との結論に辿り着きました。

分科会に参加されたことが参加者のみなさんの協会での青年活動に繋がり、来年度以降の全国大会の青年実行委員などにみなさんの協会の青年が名乗りを挙げてくれるようになれば、素晴らしいことと思います。」

### (小竹祐加)

今年は、青年実行委員長という形での参加となり、岡山ユネスコ協会の方々とはあまり行動をともにすることができなかったのが少し残念ですが、皆様に盛り上げてもらって楽しく終えることができました。

分科会では、グループディスカッションということで各地のユネスコ協会の方々と話し合うことができ、活動をするにあたっての報告・連絡・相談も必要ですが、やはり活動を共にする人のつながりが大切ではないかという結論になりました。短い時間の中でのディスカッションでしたが、参加者それぞれが意見を交わしあうことができ、有意義な時間を共有することができました。

今年も昨年に引き続き、多くの方々に支えられよい経験をさせていただき、ありがとうございました。



第5分科会討論風景



青年実行委員長 我らが小竹さんの発表

## 岡コ協主催・共催の行事予定

### 【インターナショナルクッキング(モンゴル編)】

6月15日(土) 10:00~13:00

講師：ナリスさん

担当：坪井知恵(理事)

場所：国際交流センター5階調理実習室にて

### 【インターナショナルカフェ(コンゴ編)】

6月15日(土) 14:00~16:00

講師：トーマス・ブエトゥシワ・メナブブさん

担当：石渡祐子(ボランティア)

場所：ユネスコ協会事務所にて

## 日本ユネスコ協会連盟

### 【第37回国際ユースキャンプ】

日程：平成14年7月14日~27日

場所：韓国

### 【2002ユネスコ東アジア子供芸術祭IN福岡】

日程：平成14年8月1日~3日

場所：福岡

### 【第34回ユネスコ子供サマーキャンプ】

日程：平成14年8月1日~4日

場所：奈良県・国立曽爾少年自然の家

これらの催しについては、日本ユネスコ協会連盟にお問い合わせ下さい。

TEL 03-5424-1121 FAX 03-5424-1126

## イベント情報

### 【地球環境&平和講演会】

日程：平成14年7月6日(土)

場所：ライフパーク倉敷

時間：13:00~16:00

参加費：前売 1,000円(当日 1,300円)

主催：吉備・おかやま・倉敷地球村

講演：平和な世界を子どもたちに  
高木善之(ネットワーク地球村代表)

お問合せ先

平田 TEL&FAX 0866-92-7155

日野 TEL 0866-93-5762 FAX 0866-93-9670

### 【『老親』上映会】

日程：平成14年7月6日(土)

場所：岡山ふれあいセンター大ホール

時間：10:00~12:00

参加費：大人1,200円(当日1,500円)

高校生以下800円(当日1,000円)

主催：『老親』上映実行委員会

内容：映画『老親』は老親介護の生活を描く中で、性別役割分担や女の生き方を問い直し、高齢者の自立を見つめた映画です。

問い合わせ先：姫井ゆみ子事務所

TEL 086-251-4200 FAX 086-251-4201

### 【環境学習講座】

日程：平成14年7月6日(土) 13:30~15:30

場所：岡山県生涯学習センター

参加費：500円(10回分)

主催：ぱる塾

内容：環境カウンセラー協会の協力で全10回の講座が開催されます。第1回目は「植物を利用した環境学習」です。2回目以降の日程は以下の通りです。詳しくは、生涯学習センターにお問い合わせ下さい。ちなみに、12月7日は岡コ協の井勝理事が講義を行います。

8月3日(土), 9月14日(土), 10月12日

(土), 11月9日(土), 12月7日(土),

1月18日(土), 1月25日(土), 2月1日

(土), 2月8日(土)

問い合わせ先：岡山県生涯学習センター

TEL/FAX 086-251-9751

### 【おかやま環境ネットワーク, テーマ別講座】

日程：平成14年7月13日(土) 10:00~15:00

場所：フジ有機(株), きびプラザ

参加費：1,000円

主催：(財)おかやま環境ネットワーク

内容：フジ有機(賀陽町)の食品残渣有機肥料化施設を見学した後、きびプラザで、食品リサイクル法等の講演。

問い合わせ先：(財)岡山環境ネットワーク

TEL/FAX 086-256-2565

E-mail: kankyounet@okayama.coop

### 【『市民共同発電』記念講演会】

日程：平成14年7月14日(日) 13:30~

場所：岡山市立一宮公民館

参加費：無料

主催：おかやまエネルギーの未来を考える会

講演：みんなで防ごう地球温暖化

和田武(立命館大学産業社会学部教授)

問い合わせ先：おかやまエネルギーの未来を考える会 TEL/FAX 086-943-1831

E-mail: okayama-enemira@proof.ocn.ne.jp

### 【『北京JAC全国シンポジウム』】

日程：平成14年7月20日(土), 21日(日)

場所：岡山ロイヤルホテル

参加費：3,000円

主催：北京JCA/世界女性会議岡山連絡会

内容：平和, 人権, 環境, 社会システム等に関するシンポジウムです。詳しくは、世界女性会議岡山連絡会にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：世界女性会議岡山連絡会

TEL/FAX 086-943-1318

E-mail: okacom@vtv.ne.jp

## “岡山ユネスコ協会活性化についての提言” 総会で取り上げられました

“岡山ユネスコ協会活性化についての提言”が岡山ユネスコ協会の将来を考えるワーキンググループから提出されていましたが、総会でこの提言が取り上げられ、できることから実施することになりました。総会では、この提言にしたがって組織改革が承認され、岡山ユネスコ協会の組織は会長の下に、国際部、地球環境部、芸術文化部、広報部及び専門委員会が設置されました。今後は、それぞれの部が設置目的を明確にし、目的達成のための活動を行うこととなります。

岡山ユネスコ協会は設立以来多くの活動を行ってきました。この活動を継続し、さらに活性化するためには、活動を運営するためのシステム作り、人作りが必要です。また、会の活動に多くの会員が気軽に参加できるシステム作りも重要なことでしょう。この提言が岡山ユネスコ協会の発展につながることを願っています。会員の皆様の協力をお願いいたします。

(岡山ユネスコ協会の将来を考えるワーキンググループ 世話人 井勝久喜)

### 広報部員募集中 - あなたも立派な特派員 -

総会で広報部の設置が決まりました。広報部の役割は、インターネットによる情報交換、ニューズレターの発行、会報誌の発行などです。他の部とは異なり、広報部は行事を行ったりしないのですが、他の部の活動を陰で支える重要な役割を担っています。また、一般の人にユネスコの精神を広めることも重要な役割だと思います。まだ、活動方針などは決まっていないのですが、できるだけ多くの方に参加して頂きたいと思っています。ちょっとした情報を提供して下さるだけでも結構です。是非、広報部員として参加して下さい。

部長自身が、「自分ができるときに、できることを、無理せずに」というモットーで活動していますので、気軽に参加して頂ければと思います。連絡お待ちしております。現在の部員は下記の皆さんです。

部 長：井勝久喜

副 部 長：阿川信幸

部 員：佐橋謙（担当理事，国際部），難波芳子（担当理事），田畑美和子（担当理事）

米津孝成，原田尚紀，石橋史恵，廣田陽子，柳生容子

アドバイザー

坪井知恵（芸術文化部），池田満之（地球環境部），橋本徹決（事務局），小竹祐加（事務局）

連絡先 TEL:090-9731-4591 E-mail: sanpopo@cc.okayama-u.ac.jp （井勝）

### - 事務局からのお知らせ -

#### 【国際交流報告書】

ユネスコを通じて岡山市民と留学生の交流がますます活発になることを願って、2002年3月末までの国際交流活動の内容を一挙に掲載した報告書ができあがりました。毎回の内容や参加者の感想、クッキングのレシピなど盛りだくさんです。是非、ご覧になってみてください。岡山大学経済学部の協力により、留学生支援ボランティア経費のサポートによって作成された報告書ですので無料にて配布しております。詳しくは事務局にお問い合わせください。

（文責 廣田陽子）

#### 【原稿募集】

NEWS LETTER は2ヶ月に1回、偶数月に発行されます。原稿は奇数月の最後の日まで受け付けています。各種行事への参加報告、ユネスコ活動に関係した（ほとんど全ての分野になりますが）行事の開催予定、ユネスコ活動への意見、その他会員の皆さんに伝えたいこと等がありましたら原稿をお寄せ下さい。

原稿は事務局宛に郵送して頂くか、広報部長の井勝宛にメールでお送り下さい。

E-mail: sanpopo@cc.okayama-u.ac.jp （井勝）

#### 【会費納入のお願い】

平成14年度の会費の納入をお願いします。

振込先：郵便振替 01240 - 9 - 38280 岡山ユネスコ協会

#### 発行 岡山ユネスコ協会

〒700-0026 岡山市奉還町3丁目1-28 TEL&FAX 086-255-0651

ホームページアドレス：http://www.ddn.ne.jp/~o-unesco/ E-mail：o-unesco@ddn.ne.jp